

平成12年国勢調査

# 従業地・通学地集計結果

- 福島県の結果概要 -

平成12年10月1日現在で実施された『平成12年国勢調査』の「従業地・通学地による人口」に関する集計結果が、平成14年3月29日に総務省統計局より公表された。  
この概要は、その福島県分の主なものについてとりまとめたものである。

平成14年5月

福島県企画調整部電子社会推進・統計室

# 目 次

用語の解説.....	1
結果の概要	
1 昼間人口	
(1) 昼間人口総数.....	2
(2) 市町村別昼間人口.....	2
2 昼夜間人口比率.....	3
3 通勤・通学人口.....	4
4 従業地による産業(大分類)別就業者数.....	5
統計表	
市町村、男女別常住人口及び昼間人口(平成12年).....	7

## 用語の解説

### 1 従業地・通学地集計

従業地・通学地集計とは、我が国の人口の通勤・通学による日々の移動状況を把握するため、国勢調査の結果の中から通勤者及び通学者の人口を通勤先・通学先の別に集計し、統計としてとりまとめたものである。

### 2 常住人口（夜間人口）

常住人口とは、「常住地による人口」のことをいい、調査時に調査の地域に常住している人口のことをいう。

また、「昼間人口」に対比する意味で「夜間人口」ともいう。

### 3 昼間人口

昼間人口とは、従業地・通学地集計の結果を用いて、次により算出された人口である。すなわち、常住地からの通勤・通学による流入・流出口口を加減して算出した「従業地・通学地による人口」である。

$$\text{A市の昼間人口} = \text{A市の常住人口} - (\text{A市に常住しA市以外を従業地・通学地とする人口}) + (\text{A市以外に常住しA市を従業地・通学地とする人口})$$

### 4 昼夜間人口比率

昼夜間人口比率とは、常住人口100人当たりの昼間人口の割合のことをいい、100を超えているときは昼間人口が常住人口を上回ることを示し、100を下回っているときは昼間人口が常住人口を下回ることを示している。

$$\text{A市の昼夜間人口比率} = (\text{A市の昼間人口} / \text{A市の常住人口}) \times 100$$

### 5 通勤・通学人口

15歳以上の就業者のうち自宅外で従業している「通勤者」の人口と、学校（予備校、洋裁学校などを含む。）に通っている15歳以上の「通学者」の人口をいう。

### 6 流入人口・流出口口

流入人口とは、当該市町村（又は県）以外に常住し当該市町村（又は県）に通勤・通学する人口をいい、流出口口とは、当該市町村（又は県）に常住し当該市町村（又は県）以外へ通勤・通学する人口をいう。

(注) 従業地・通学地集計では、年齢不詳の者を集計の対象から除外している。そのため、市町村によっては、「常住人口」と「確定人口」が一致しないところもある。

# 1 昼間人口

## (1) 昼間人口総数

平成12年国勢調査による平成12年10月1日現在の福島県の昼間人口は2,122,225人で、常住人口(夜間人口)2,126,335人に比べ、4,110人少なく、昼夜間人口比率(常住人口100人当たりの昼間人口の割合)は99.8となっている。

また、昼間人口は、平成7年国勢調査に比べ6,725人(0.3%)減少した。

表1 常住人口、昼間人口及び昼夜間人口比率

	常住人口(人) (A)	流出人口(人) (B)	流入人口(人) (C)	昼間人口(人) (D = A - B + C)	昼夜間人口比率 (D / A × 100)
平成7年	2,133,291	16,572	12,231	2,128,950	99.8
平成12年	2,126,335	16,164	12,054	2,122,225	99.8
増減数	6,956	408	177	6,725	-
増減率(%)	0.3	2.5	1.4	0.3	-

## (2) 市町村別昼間人口

県内市町村において、昼間人口が最も多いのは、いわき市で359,828人、次いで、郡山市(355,555人)、福島市(304,944人)と続いている。

一方、昼間人口が最も少ないのは、檜枝岐村で801人となっている。

表2 昼間人口の多い市町村(平成12年)

順位	上位5市町村				下位5市町村			
	市町村(人)	昼間人口(人)	常住人口(人)	昼夜間人口比率	市町村(人)	昼間人口(人)	常住人口(人)	昼夜間人口比率
1	いわき市	359,828	360,051	99.9	檜枝岐村	801	757	105.8
2	郡山市	355,555	334,680	106.2	葛尾村	1,449	1,736	83.5
3	福島市	304,944	291,114	104.8	伊南村	1,784	1,887	94.5
4	会津若松市	128,781	118,081	109.1	昭和村	1,831	1,874	97.7
5	須賀川市	63,948	66,747	95.8	高郷村	1,937	2,514	77.0

また、県内市町村のうち、平成7年国勢調査に比べ昼間人口の増加した市町村は23、減少した市町村は67であった。

このうち、増加数の最も多かったのは、郡山市で11,377人の増加、以下、福島市(4,743人増)、須賀川市(1,371人増)と続いている。

一方、減少数の最も多かったのは、原町市で2,650人の減少、以下、いわき市(1,694人減)、会津若松市(1,576人減)と続いている。

表3 昼間人口増減数の多い市町村(平成12年)

順位	昼間人口増加数の多い市町村					昼間人口減少数の多い市町村				
	市町村	増加数(人)	昼間人口(人)		増加率(%)	市町村	減少数(人)	昼間人口(人)		減少率(%)
			平成7年	平成12年				平成7年	平成12年	
1	郡山市	11,377	344,178	355,555	3.3	原町市	2,650	53,100	50,450	5.0
2	福島市	4,743	300,201	304,944	1.6	いわき市	1,694	361,522	359,828	0.5
3	須賀川市	1,371	62,577	63,948	2.2	会津若松市	1,576	130,357	128,781	1.2
4	白河市	1,228	50,385	51,613	2.4	石川町	1,524	21,664	20,140	7.0
5	西郷村	780	17,699	18,479	4.4	川俣町	1,249	18,053	16,804	6.9

## 2 昼夜間人口比率

市町村別に昼夜間人口比率をみると、大熊町が132.0と最も高く、次いで、磐梯町（111.9）、南郷村（109.3）と続いている。

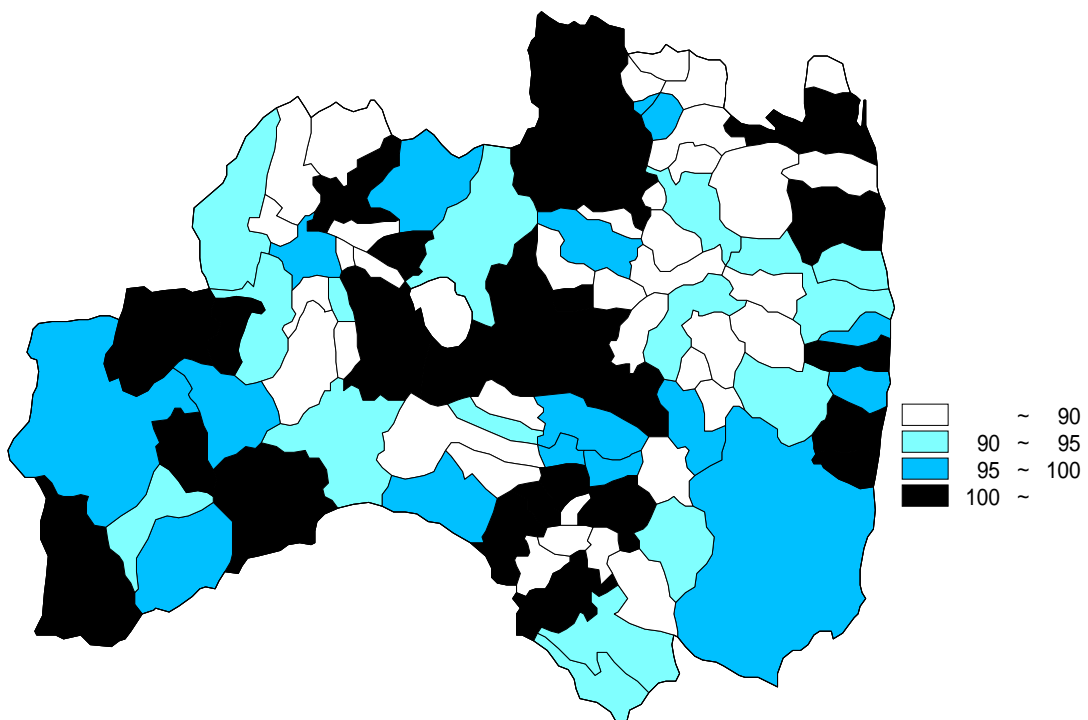
一方、昼夜間人口比率が最も低いのは、新鶴村で73.1、以下、岩瀬村（76.5）、高郷村（77.0）と続いている。

昼夜間人口比率が100を超えているのは21市町村で、平成7年の19市町村に比べ2市町村増加した。

表4 昼夜間人口比率の高い市町村（平成12年）

順位	上位5市町村				下位5市町村			
	市町村	昼夜間人口比率	常住人口 (人)	昼間人口 (人)	市町村	昼夜間人口比率	常住人口 (人)	昼間人口 (人)
1	大熊町	132.0	10,803	14,260	新鶴村	73.1	4,102	2,999
2	磐梯町	111.9	4,109	4,597	岩瀬村	76.5	6,210	4,751
3	南郷村	109.3	3,081	3,368	高郷村	77.0	2,514	1,937
4	会津若松市	109.1	118,081	128,781	熱塩加納村	78.8	3,633	2,861
5	本宮町	109.0	22,280	24,289	河東町	79.6	9,610	7,647

図1 市町村別昼夜間人口比率（平成12年）



### 3 通勤・通学人口

福島県内に常住する15歳以上の通勤・通学者数は981,663人、このうち、従業地又は通学地が自市町村内の者は721,534人（通勤・通学者総数に占める割合73.5%）、県内の他市町村の者は260,129人（同26.5%）、他県の者は16,145人（同1.6%）となっている。

また、通勤・通学者数を平成7年と比較すると、従業地又は通学地が自市町村内の者は4.6%減少し、県内の他市町村の者は6.8%の増、他県の者は2.5%の減となっている。

表5 従業地・通学地別15歳以上就業者・通学者数

	就業者・通学者数(人)		増減率 (%)
	平成7年	平成12年	
県内に常住する就業者・通学者	1,218,483	1,183,481	3.0
自宅で従業	219,914	201,818	9.0
通勤・通学者	998,569	981,663	1.7
自市町村内	754,613	721,534	4.6
他市町村	243,956	260,129	6.2
県内	227,411	243,984	6.8
他県	16,545	16,145	2.5
就業者	1,087,442	1,060,924	2.5
自宅で従業	219,914	201,818	9.0
通勤者	867,528	859,106	1.0
自市町村内	662,271	637,030	4.0
他市町村	205,257	222,076	7.6
県内	192,322	209,176	8.1
他県	12,935	12,900	0.3
通学者	131,041	122,557	6.9
自市町村内	92,342	84,504	9.3
他市町村	38,699	38,053	1.7
県内	35,089	34,808	0.8
他県	3,610	3,245	11.2

#### 4 従業地による産業（大分類）別就業者数

福島県内で従業している15歳以上就業者1,058,604人を産業別にみると、「サービス業」が254,188人（就業者総数に占める割合24.0%）と最も多く、次いで、「製造業」が241,586人（同22.8%）、「卸売・小売業、飲食店」が204,706人（同19.3%）と続いている。

表6 従業地による産業（大分類）別15歳以上就業者数

産業（大分類）	平成7年		平成12年		増減	
	総数 （人）	構成比 （%）	総数 （人）	構成比 （%）	実数 （人）	率 （%）
就業者総数	1,084,908	100.0	1,058,604	100.0	26,304	2.4
第1次産業	118,170	10.9	102,356	9.7	15,814	13.4
農業	111,786	10.3	97,076	9.2	14,710	13.2
林業	2,689	0.2	2,267	0.2	422	15.7
漁業	3,695	0.3	3,013	0.3	682	18.5
第2次産業	391,880	36.1	367,828	34.7	24,052	6.1
鉱業	1,843	0.2	1,391	0.1	452	24.5
建設業	130,241	12.0	124,851	11.8	5,390	4.1
製造業	259,796	23.9	241,586	22.8	18,210	7.0
第3次産業	573,010	52.8	583,942	55.2	10,932	1.9
電気・ガス・熱供給・水道業	8,036	0.7	8,442	0.8	406	5.1
運輸・通信業	51,966	4.8	52,287	4.9	321	0.6
卸売・小売業、飲食店	207,644	19.1	204,706	19.3	2,938	1.4
金融・保険業	25,080	2.3	22,882	2.2	2,198	8.8
不動産業	5,140	0.5	5,656	0.5	516	10.0
サービス業	240,809	22.2	254,188	24.0	13,379	5.6
公務（特に分類されないもの）	34,335	3.2	35,781	3.4	1,446	4.2
分類不能の産業	1,848	0.2	4,478	0.4	2,630	142.3